

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「ポスターを読もう」 教材名「ポスターを読もう」

2 単元の目標

ポスターの中心となる情報と、それを詳しく伝える事柄との関係を理解できる。読んで理解した内容を基に、ポスターの伝え方について感想や考えをもてる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ポスターの中心となる情報と、それを詳しく伝える事柄との関係を理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「読むこと」において、読んで理解した内容を基に、ポスターの伝え方について感想や考えをもっている。（C(1)オ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

ポスターの言葉と配置から内容を理解し、読み手として考えたことを述べる。目立つ色の感想だけでなく言葉の働きを根拠にする。学習指導要領のC(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)アを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案では〔知識及び技能〕(2)アを活動に関わる事項として扱う。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

教師作成のポスターで題名・本文・図・日時や場所を分けて確認する。読み手が行動するために必要な情報と、興味を引く表現の働きを区別して考える。おおむね満足できる状況は、読んで理解した内容を基に、ポスターの伝え方について感想や考えをもっているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○内容と目的を言葉で確かめる。言葉と図の働きを比べる。	学習状況を見て支援する。
	2 （本 時）	○読み手として考えたことを根拠付きで書く。異なる感想を比べる。	知①・思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

読んで理解した内容を基に、ポスターの伝え方について感想や考えをもてる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この言葉や配置で、何を知らせようとしていると考えますか」 【めあて】ポスターの言葉と配置から内容を理解し、読み手として考えたことを述べる。 〈予想される児童の反応〉 ・ 大きい言葉で内容が分かり、細かい所で条件を確かめられる。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「この言葉や配置で、何を知らせようとしていると考えますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを見せて説明し、聞き手は分かったところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・ 大きい言葉で内容が分かり、細かい所で条件を確かめられる。 ・ 絵だけでなく文も読む必要がある。 ・ 自分ならここをもう少し知りたい。	教師作成のポスターで題名・本文・図・日時や場所を分けて確認する。読み手が行動するために必要な情報と、興味を引く表現の働きを区別して考える。 想定するつまずき：見た目の好みだけを話す、書かれていない目的を断定する。児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 読んで理解した内容を基に、ポスターの伝え方について感想や考えをもっている。(発言と学習記録) ◎知① ポスターの中心となる情報と、それを詳しく伝える事柄との関係を理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)(使った言葉・音読や表記の確認)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・ 自分ならここをもう少し知りたい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この言葉や配置で、何を知らせようとしていると考えますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

